



COVID-19 ワクチン接種を考慮する 妊婦さんならびに妊娠を希望する方へ

患者さん一人一人の背景が違いますので、
まずは産婦人科の主治医と十分にご相談下さい

参考資料：

日本産婦人科感染症学会

日本産科婦人科学会

令和3年1月27日 通知より



中・長期的な副反応については、現時点では不明

十分な有効性や安全性に関する臨床データの集積はない

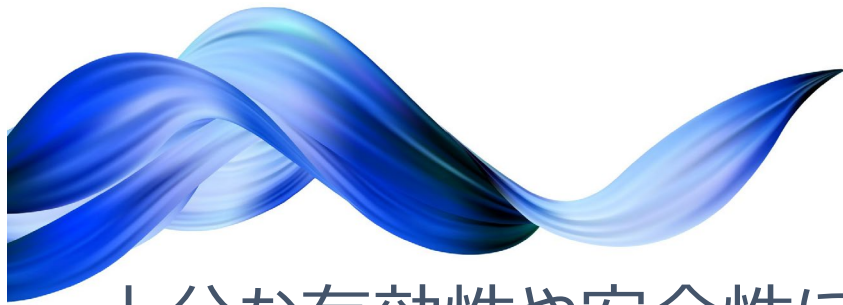
大規模な接種を始めたイスラエル
新規感染者、重症者、
基本再生産数 がともに激減

致命的な副反応は
報告されていない

2021/1/29

副反応としてアナフィラキシーを含む
アレルギーの頻度
米国 ファイザー製ワクチン
0.0011%

注射部位の強い疼痛が
数日続くことや発赤



十分な有効性や安全性に関する臨床データの集積はない

妊婦さんに対しては十分な知見がない



米国

- 妊婦を除外すべきではない



イスラエル

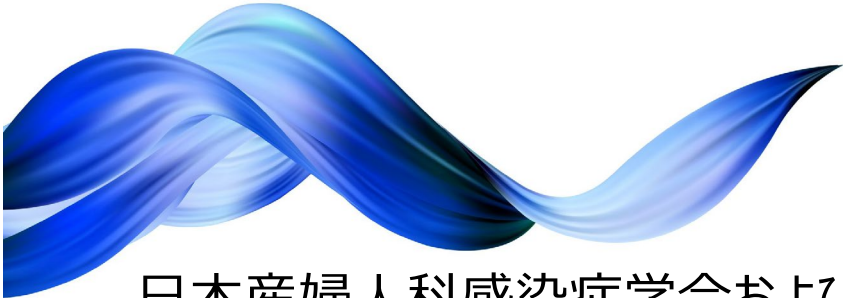
- 積極的な接種対象



英国やカナダ

- 妊婦中の接種は推奨していない

2021/1/29



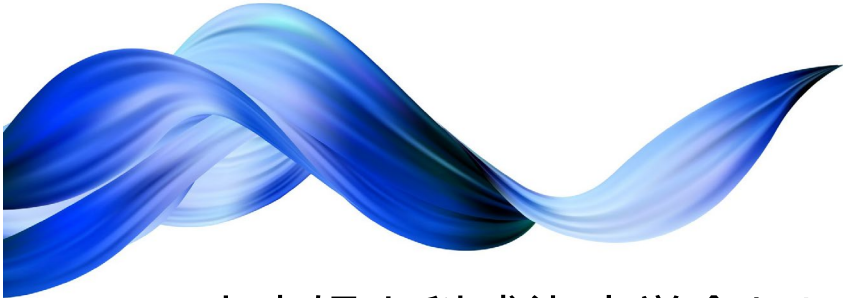
日本産婦人科感染症学会および日本産科婦人科学会として、
現状において以下の提言

- 1 COVID-19 ワクチンは、現時点で妊婦に対する安全性、特に中・長期的な副反応、胎児および出生児への**安全性は確立していない**
- 2 流行拡大の現状を踏まえて、妊婦をワクチン接種**対象から除外しない**
- 3 接種する場合には、**長期的な副反応は不明**で、胎児および出生児への**安全性は確立していない**ことを接種前に十分に説明する



日本産婦人科感染症学会および日本産科婦人科学会として、
現状において以下の提言

- 4 同意を得た上で接種し、その後30分は院内での経過観察が必要
- 5 器官形成期は、ワクチン接種を避ける（妊娠12週まで）
- 6 母児管理のできる産婦人科施設等で接種を受け、
なるべく接種前と後にエコー検査などで胎児心拍を確認



日本産婦人科感染症学会および日本産科婦人科学会として、
現状において以下の提言

- 7 感染リスクが高い**医療従事者**、**重症化リスク**がある可能性がある肥満や糖尿病など**基礎疾患**を合併している方は、ワクチン接種を考慮
- 8 妊婦のパートナーは、**家庭での感染を防ぐ**ために、ワクチン接種を考慮
- 9 妊娠を希望される女性は、可能であれば**妊娠する前に接種**を受ける
(生ワクチンではないので、接種後長期の避妊は必要ない)